



WAKU WAKU + CLUB

くわくらぶ

『そよかせ通信』から書名を新しくしました
指導に役立つ情報をいっそう充実させてお届けします



鼎談

もしも、アタマの中が見える 虫眼鏡があったら

アタマとカラダのつながりから見える生活科の学び ……2

藤井千恵子先生 国士舘大学教授

池谷裕二先生 東京大学教授

喜名朝博先生 東京都江東区立明治小学校統括校長

保育・教育はこう変わる ……4

汐見稔幸先生

東京大学名誉教授・日本保育学会会長・白梅学園大学名誉学長

新しい教科書の使い方

～新しい教科書で、新しい生活科を～ ……8

全ての教育活動で行う「スタートカリキュラム」

～国語科と生活科の視点から～ ……11

根本裕美先生 東京都練馬区立光和小学校 指導教諭

教育出版

令和2年4月。新学習指導要領のもと、新教育課程が始まります。

新教育課程では、各教科等の個別の学習のみではなく、

幼児期から高等学校まで各学校段階で育んだ資質・能力をつなぐ「学びの連続性」が求められています。

あらためて生活科の学びとは。生活科の本質について、著者の先生に語っていただきました。

もしも、アタマの中が見える 虫眼鏡があったら

アタマとカラダのつながりから見える生活科の学び



本鼎談の全文を
弊社HPに掲載

「人間らしさ」を生かした 学びが大切です

——新教育課程の生活科では、発達段階に応じた思考力を育てることが課題です。脳と学習の関係を教えてください。

池谷 脳の学習プロセスの中には、「速い学習」と「遅い学習」といえるものが二重に動いています。結果をすぐに求めたがる場合は「速い学習」が重視されます。いわゆる「わかった!」です。

僕は、成長とは「遅い学習」だと思うのです。「成長しているのかしていないのか、自分でもモニターできていないんだけど…」というあの段階を、すごく大切にしなければいけないと思っています。

藤井 生活科を始めた頃、子どもが活動に没頭する時間をたくさん確保するということを大切にしていました。「遅い学習」が大切であるということにつながりますね。没頭しているのを待つ、しっかり見届けてあげるというように、教える側が我慢して見ていられるかというのがすごく大きいんじゃないかな

藤井千恵子先生

(国士館大学教授)

公立小学校教員等を経て、東京都教育委員会など各区教育委員会の要職を歴任。著書は『1年生の授業 生活科 体験活動が生きる楽しい授業づくり』(1992 東洋館出版) など。



いかと思いました。

喜名 「わかった！」の快感、これは確かにあると思うんですね。前にやったことと、今、目の前で起こっていることがつながる瞬間、そういうときに子どもは「わかった」って、ものすごくいい顔をするし、学んでいるよさみたいなのを我々も感じます。

池谷 そもそも「人間らしい」ところは「動物らしい」ところの上に乗っています。「遅い学習」がない限り、「人間らしさ」は活かせません。どちらも大切です。

喜名 自分の思考過程や、やってきた過程をモニタリングする力というのは、発達段階では、どれくらいでしょうか。

池谷 例えば、「私、問題解けてる！」みたいなのがわかるのは、5、6歳くらいからだと思います。だから、小学校に入る頃には、もう十分できています。

喜名 生活科では、「自分自身への気付き」を大切にしているんですけど、とっても理に合っているわけですね。

池谷 そうですね。いちばん大切なところですよ。そのファーストステップはもうできている時期です。

■ 実感を伴う学びがあるのは生活科だけです

—— 体験学習が中心の生活科です。体験と脳にはどんな関係があるのでしょうか。

池谷 僕らは、感覚の世界の中でしか生きていないので、感覚に実感を伴わせることが、すごく大切です。他教科では、目や音など特定の感覚が中心ですよ。だから、諸感覚をまんべんなくきちんと使っていく必要があります。そうすることによって、幻覚が幻覚じゃなくて、実感になるんです。脳が感じている世界を疑わないようにするためには、実感を伴う必要があります。そういうことを学ぶことができるのは生活科だけだと思います。

喜名 学校教育が始まって150年、実は、基本的なカタチは、何も変わっていません。先生がいて、子どもが先生のほうを向いて画一的に教えられるということが、今この時代になって合わなくなってきているんじゃないかと思います。

本来は、生活科は教育改革の柱だったはずなんですけど。それが少し形骸化してしまって、また同じ150年続いている学校教育の中の生活科になりつつあるのが残念です。

だから、この新しい教科書で、そういうところを変えていかないと、と思うんです。

一同 そうですね！

池谷裕二先生

(東京大学教授)

脳研究者。海馬や大脳皮質の可塑性を研究する。「ババは脳科学者」(2017クレヨンハウス)『脳はみんな病んでいる』(2019新潮社)など、脳科学の知見をわかりやすく紹介する一般向けの著書多数。

喜名朝博先生

(東京都江東区立明治小学校統括校長) 公立小学校、東京学芸大学附属大泉小学校教員等を経て、東京都各区市の教育委員会の要職を歴任。生活科創設以来、授業方法を研究・推進してきた。令和元年5月 全国連合小学校長会 会長に就任。



保育・教育はこう変わる

汐見稔幸先生

東京大学名誉教授・日本保育学会会長・白梅学園大学名誉学長



1. 世界で取り組まれている 新たな学力像への転換

今、世界中の国が教育のバージョン転換、すなわち20世紀型教育から21世紀型教育への転換を図っています。そのために、キーとなるカテゴリーの転換と創出に必死です。例えばOECDが先導して、20世紀末期からキーコンピテンシーの見直しを行ってきました。そのキーコンピテンシーの形成はいかようかということで、独自の調査をOECDが始めたのが2000年でした。調査はPISA調査といわれ、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3領域を順に重点的に調査し、3年ごとに行われています。日本はこの調査に初めから参加しています。先日日本の15歳児の国語の力が8位から15位に落ちたことが話題になっていました。

日本では8位だ15位だという順位が話題にな

っていますが、この調査が古い学力でなく21世紀型の新しい学力キーコンピテンシーの獲得状況の調査だということはあまり問題にされません。学力の質を問題にすることが弱い日本の教育の特徴、というよりも問題点が浮かび出ています。新しい教育に切り替えて、子どもたちにキーコンピテンシーがどう育っているか調べるので参加してほしいというのがOECDのもくろみなのです。

OECDがそのために考案したキーコンピテンシーのカテゴリーは、次の3つです。

①社会的に異質な集団での交流

(他者とうまく関わる能力、協力する能力、対立を処理し解決する能力)

②自立的に行動する能力

(「大きな展望」の中で活動する能力、人生計画と個人的なプロジェクトを設計し実行する能力、自らの権利、利益、限界、ニーズを守り主張する能力)

③社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力

(言葉、シンボル、テキストを相互作用的に活用する力、知識や情報を相互作用的に活用する力、技術を相互作用的に活用する力)

これらを柱とした能力を育てることに重点を移すことが提案されています。サブ課題としてあげられているのが、上述の()内の9つの

力です。日本の幼稚園教育要領に示された10の姿などと、発想が異なっていることが読み取れます。

ヨーロッパ各国は、こうした新たな学力像へ目標を切り替えて、それに相応しい授業内容、方法、形態を模索してきました。今、ほとんどの国では、いわゆるトークアンドチョーク方式の授業は行われていません。ワークショップ方式の授業が多くなっています。これが20世紀型と21世紀型の大きな違いといえるでしょうか。

2. 新教育課程は日本の教育の21世紀バージョン

ひるがえって日本では、こうした流れに移ることが、一回挫折したという経験があります。それがゆとり教育といわれているもので、学力低下を招いたという批判の強まりの前に、改革が中断した印象があります。

しかし、世界で今進められている教育改革の基本は、わが国でゆとり教育と揶揄された内容と近いものです。だからこそワークショップ(作業場の意)方式の授業に切り替えているのです。ここでは授業はレッスンではなくスタディになります。スタディとは子どもたちなりの研究ということです。

そのため、今回の学習指導要領の改訂、幼稚

園教育要領の改訂、そして保育所保育指針の改定は、総じて、世界に比べて後れをとった教育の21世紀バージョンへの転換ということテーマにしています。

その内容について小学校以降についてはよくご存知でしょうから、ここでは保育・幼児教育の改革の内容について説明します。保育・幼児教育の改革も、わが国の教育全体を21世紀バージョンに変えていくその大きな試みの基礎を担うように位置づけられています。

保育・幼児教育の改革の内容で最も大きいのは、その原理を「子ども中心の保育・教育」、そしてそこから必然的に「環境を通じた保育・教育」へと、しっかりと移すということです。

環境を通じた教育、子ども中心の教育ということは、すでに30年前の幼稚園教育要領の改定の際に謳われたものです。その意味でとくに新しい提起ではないのですが、幼稚園では教師中心の教育をしているところがかなりあるということと、保育所は新しい原理が十分浸透していないところが多いという判断が背景にあります。保育所も30年前に似た改定がなされたのですが、その細かな機微を現場が研究するほどには、原理が徹底していませんでした。

今回の改定でより大きな成果が期待されているのは、その意味で幼稚園よりも保育所と子ども園の方といえます。だからこそ、幼稚園教育要領の方は「改訂」という語が使われ、保育所

保育指針は「改定」という語が使われたのです。では、現状の保育にはどのような課題があるとされているのでしょうか。

日本の場合、一人の保育者が担当する子どもの数がたいへん多いという問題があります。年長児の場合、一人の先生が30人もの子どもを担当しなければならないという制約があり（もちろん園によって、行政によって、これではたいへんということに加配しているところは多くあるのですが）、先進国の中では最も条件がよくないのではないかと思います。

そのためということもあるのですが、保育者が子どもをまとめるのにとっても苦勞します。そこで、保育者の力量として子どもに上手に指示できること、従わない場合あまり甘い顔をしないことということが重視されてきました。ベテランとは、子どもへの指示が上手な人のことといってもよいくらいでした。

しかし、この間、子どもを指示して動かし、結果としてなにごしかのことができるようになっていく、という保育・教育では、子どもは深くは育たないということがわかってきたのです。心理学の世界で、この2、30年ほど、情動研究が盛んになり、子どもは自らやりたい、できるようになりたいという気持ち（情動）を強くもてば、そこで自ら挑むようになり、そうして挑んで自ら身につけたものは、簡単には消えないということがわかってきました。それをわがものにしたいという気持ちや感情、あるいは積極的なやる気等がきちんとあれば、学びは深く、持続的になるが、させられてやって学んだものは、その後、そうして学んだ知識やスキルを日常的に使わないと、次第に脳から消えていくと

ということがわかってきたのです。幼児期に英語を多少かじったとしても、日本のようにその後、それを使うチャンスがなければ、やがて忘れるのと同じです。

ポジティブな情動、やる気、意欲があると、子どもは、その子を惹きつける素敵な文化財などに会いさえすれば、その文化をわがものにしたいと自ら挑み始めます。赤ちゃんが、何も大人から指示されないのに、自分でハイハイからタッチに移り、やがて歩き出すようになるようなものです。大人はその間、とくに指示したりしていなくても子ども自身に歩けるようになりたいという強い気持ちがあると、自ら挑んで、いつの間にかできるようになっていくのです。大人が温かく共感的に支え応答している姿勢がとりわけて大事になってきました。

その意味で、子どもは（乳幼児期の子どもは特に）自育的な存在、自育的生物といえます。大人・保育者の役割は、子どもが何かその子の興味関心の対象となるもの、広く子どもにとっての大事な文化にうまく出会えるようにチャンスをつくることになります。その出会いは、もの、遊びの素材、実際の遊び、年上の子のおもしろそうに遊ぶ姿、あるいは子どもの興味を引くもの、そういうものが多くある環境、そして子どもが自主的に何かに挑んだとき、それに共感して応援するような保育者の姿勢という環境に恵まれたときに多く生まれます。その出会いを上手に保障することを「環境づくり」といっているわけです。

こうした人間研究の伸展によって、保育・教育は、あれこれ子どもに指示するよりも、子ども自身が主体的・自主的に動き、挑むことを応

援し支えることに重点を置くことが大事だということがわかってきたのです。指示してさせればできることはできるかもしれませんが、でも、そこで身につく内容を支える脳の回路は浅いものだし、情動という脳の奥の方で働く機能と結びついていないので、すぐ消えてしまう可能性があるのです。

こうして日本の保育・教育は、全国で「環境づくりを通じた保育」の質向上のために検討を始めています。

3. 「主体的・対話的で深い学び」で育むメタ認知能力

日本の保育・教育が挑んでいることのもう一つは、いわゆる「資質・能力」育てへの挑戦です。保育の世界では、資質・能力は「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの側面があるとされています。

これらは内的に、つまり人間の頭や身体の中では切り離せず結びついているものですが、この中で「思考力、判断力、表現力の基礎」と呼ばれている資質・能力には多くの期待が込められています。指針や要領の中には明記されていませんが、これを策定するための中教審の教育課程部会での議論の中では、突っ込んだ議論がおこなわれました。

その中で注目すべきは、子どもたちのメタ認知能力育てが、この中に込められているということでしょう。メタ認知能力というのは、あることをしている自分をもう一人の心の中の自分

がその自分を見つめモニターできるという能力です。電話で話すときに相手に応じて言葉づかいを変えられるのは、自分で自分の話し方をモニターしているからです。

実は人間性を鍛えていくときに、このメタ認知能力があると、計算のような操作をしているときでも、自分でそのやり方はまずいかなと思念しながら操作できるようになります。対人関係を処理するときも、この言い方はまずいから変えようと思念するのは好ましい認知能力です。

今回の改定で「主体的・対話的で深い学び」と、対話的ということにこだわっているのは、対話的關係の中でこそ、子どもはメタ認知、そして堅実な自我をはぐくめるという予想があるからです。この点はこれからの保育・教育が挑むことの重点ポイントになっていくでしょう。



付録インタビューを弊社HPに掲載
汐見先生に聞く
～幼児教育が「深い学び」の鍵～

汐見稔幸（しおみ としゆき）

東京大学名誉教授・日本保育学会会長・白梅学園大学名誉学長
2018年3月まで白梅学園大学学長を務める。専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。
自身も3人の子どもの育児を経験。保育者による本音の交流雑誌『エデュカーレ』編集長でもある。
21世紀型の身の丈に合った生き方を探るエコビレッジ「ぐうたら村」を建設中。
NHK「すくすく子育て」に出演中。
最近の主な著書『「天才」は学校で育たない』2017年（ポプラ社）、『さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか』2017年（小学館）、『汐見稔幸 こども・保育・人間』2018年（学研）、『0・1・2歳児からのいい保育 全3巻』2018年（フレーベル館）など多数。

新しい教科書の使い方

～新しい教科書で、新しい生活科を～

生活科は平成元年の学習指導要領で誕生し、教科書は平成4年から発行が始まりました。新教科であったため、授業スタイルをイメージできる教科書が求められ、以来、写真やイラストで活動を見せる紙面が定着しました。そのためでしょうか。生活科の教科書は、「必要なページだけを見る」「教科書を使わない」という声を聞きます。そこで、新しい教科書は、「生活科の学び」が活動に埋もれない工夫をしました。教科書は変わりました。ぜひ、開いてみてください。

1 単元全体の流れをつかむ

「導入」「活動」「振り返り」の流れで構成

全体を眺めて授業のイメージをつかんでください。

2 各学習の「めあて」をつかむ

生活科で育む資質・能力をサイコロでおさえる

各小単元に、最も育てたい資質・能力を示しています。児童も教師も学習のめあてを把握して、「体験活動をしているだけ」にさようならしましょう。

3 いつ、どのように学習を振り返るのか計画を立てる

主体的・対話的で深い学びへと導く学習方法で、生活科の資質・能力が育まれたか振り返りする

出来事の振り返りではなく、児童にとってどのような学びがあったかを例示しています。表現方法だけではなく、そこに表れている内容を参考にしてください。

4 そしてもっと学びを深める

「もしも」を使って知識と体験を結びつける

「もしも」を考えることは、それまでの知識や体験を結びつけることにつながります。学習前と学習後に「もしも」を使って、児童の反応を比べてみましょう。児童の言葉が違っているはず。そこに、体験をしたからこそ得た生活科の学びが表れています。

スタートカリキュラムをデザインする教材

まずはゆったり、絵本「なかよしのき」を眺めて 児童と会話をする時間をつくる

一緒に眺めて「絵の中に子どもたちは何人いるかな」「木はなんの形に見えるかな」と会話をしながら、これまでの生活経験や友達との関係、言語力などをつかむ教材です。

上巻 p.1, 2～3, 4～5 の3見開きが絵本になっています。

イラストには、「気付き」の象徴である木が描かれ、木の成長とともに協働的な学びを広げる様子が描かれています。



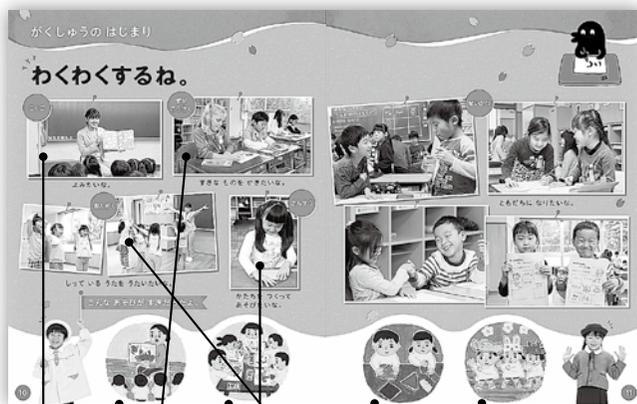
㊦ p.2～3

幼児期の経験を生かして、 少しずつ教科学習へ移行するスタイルを例示

入学してすぐに国語の時間、算数の時間と分けるのではなく、例えば15分ずつで各教科を合科させたり関連させたりしながら教科学習へと移行します。

上巻 p.8～9, 10～11, 12～13 の3見開きで、入学当初の活動を掲載しています。

上段の写真は幼児期の経験が教科として分かれていく様子。下段のイラストは幼児期の経験。教科学習へとつながる芽は、すでにできています。



㊦ p.10～11



㊦ p.8～9

㊦ p.10～11

㊦ p.12～13

「幼児期の終わりにまで育ってほしい姿」(10の姿)

全ての教育活動で行う 「スタートカリキュラム」

～国語科と生活科の視点から～



根本裕美先生

(東京都練馬区立光和小学校 指導教諭)

生活科において高い専門性と優れた指導力をもち、模範授業などを行い、生活科の指導技術を自校や他校の教員に普及させている。

■そもそも「スタートカリキュラム」とは

4月。「入学おめでとう。」の言葉に、満面の笑顔で入学してくる1年生。小さな体に夢をいっぱい詰め込んでいるように見えます。しかし、本当に彼らの心は喜びだけでしょうか。学校に少し慣れた6月頃にアンケートをしたところ「心配があった」「少し心配があった」と答えた児童は、「心配がなかった」と答えた児童の倍近くいました。「勉強は難しいのか」「先生が怖くないか」「給食が食べられるか」「友達はできるか」「一人で登下校ができるか」などの多様な心配を抱えていたのです。この数年1年生の担任をしています。どの年も同じ傾向にあります。つまり、入学は大人が思う以上に、児童にとって「心配」なものなのです。このような入学当初の児童の実態に合わせて小学校が用意するカリキュラムのことを「スタートカリキュラム」と呼びます。

■新しい教育課程における「スタートカリキュラム」

スタートカリキュラムという用語は『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成20年8月告示）で登場し、『スタートカリキュラム スタートブック』（平成27年1月 国立教育政策研究所）において次のように規定されました。

「小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム」

これまでの段階では、生活科だけの用語として捉えられてきました。

しかし、平成29年3月告示の『小学校学習指導要

領』（第1章 総則 第2 4学校段階等間の接続）に、次のように示されました。

「教科等間の関連を積極的に図り（中略）特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」

また、国語科（第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1（7））などの全教科に同様の文言が記されました。つまり、令和2年4月からの新教育課程では、入学当初の全ての教育活動においてスタートカリキュラムを行うものとされたのです。

では、実際にどのように行えばよいのでしょうか。ここでは、数年前から実施しているA小学校の事例を紹介します。一般的に、スタートカリキュラムに取り組んでいる学校では時間割を「タイム」と呼んで編成しています。A小学校では、

- ・のんびりタイム：始業前の支度のあと、自由に過ごす朝の時間
- ・なかよしタイム：人間関係を築く時間（『幼稚園教育要領』5領域とつなげる）
- ・わくわくタイム：生活科を中心として合科的・関連的な指導を行う時間
- ・ぐんぐんタイム：各教科等を中心とした時間とし、入学当初は「なかよしタイム」を主とし、徐々に「ぐんぐんタイム」へと移行します。

A小学校の1か月間の「スタートカリキュラム」例

(A小では水曜日が5時間時程)

①第1週

【ねらい】学校や学校生活への安心感をもち、先生や友達と仲よく関われるようにする。

学校の施設の様子や生活のリズムを知り、安心して遊びや生活ができる。
新しい友達の顔や名前を覚え、楽しく関わることができる。
支度の仕方、机やロッカーの使い方などを知り行うことができる。

余剰：教育課程外の内容。A小ではスタートカリキュラムとして12時間程度の余剰をとり、教科目標にはそぐわないが、人間関係づくりのように大切なことを行っている。
「なかよしタイム」：A小では入学前の教育との関連を図り、幼稚園教育要領の5領域とつないで構成している。

※余剰カウント4½時間

入学式後の教室での歌遊びや、入学式の感想、小学校でやってみたいことなどを児童から聞き取る。
入学式後に保護者へスタートカリキュラムの概略を伝えるとともに理解と協力を仰ぐ。

	1年生に関わる予定	朝	1時間め	2時間め	3時間め	4時間め
1日め	入学式				入学式 行事1½	おめでとう 学級活動
2日め	定期検診 初登校 指導日	朝の支度の仕方を知る	な 【表現】 ※歌遊び・歌のリクエスト ※名前と幼稚園・保育所を紹介する 余剰カウント1	わ 「教科書」という名称を知り、楽しく見たり話したりする自己紹介をし、皆で遊ぶ 生活：あ、あれ、わくわくがいっぱい	わ 教科書を見てやってみたいことを話す 校舎内を散歩する 生活：きょうから1ねんせい	帰りの支度 下校の仕方 学級活動(2)
3日め	発育測定 腎臓検診 5時間時程 (午前)	な 【言語】【人間関係】 ※挨拶リレー リズムで名前呼び 余剰カウント1	発育測定 行事1	ぐ 集団行動と固定施設を使っての運動遊び 体育：固定遊具で遊ぼう	ぐ 教科書を見る 場面に合わせた挨拶の練習 国語：たのしいいちにち	初めての給食 栄養士さんのお話 学級活動(2)
4日め	対面式	対面式 朝の支度	な 【言語】【人間関係】 ※挨拶リレー ※同じ誕生日などで仲間づくり 余剰カウント1	わ 今日やってみたい学習について発表する 校舎内を散歩する 上級生の生活の様子を見る 生活：きょうから1ねんせい	ぐ 教科書を見る (挨拶の練習 鉛筆の持ち方) 名前を書く (初めての名前) 国語：たのしいいちにちわたしのなまえ	楽しみだね、給食 給食の準備の仕方 学級活動(2)
5日め	避難訓練 (2校時) 給食開始	の	な 【健康】【言語】 ※遊び ※食べ物話の読み聞かせ 余剰カウント1	安全な 学校生活 避難訓練 の仕方 学級活動(2)	避難訓練 行事½	ぐ クレヨンの使い方を知り、自分の好きなものや伝えたいことを描く 図工：好きなものなあに 鉛筆の持ち方 名前を書く 給食準備 国語：かいてみよう 余剰カウント½

の …のんびりタイム **な** …なかよしタイム **わ** …わくわくタイム **ぐ** …ぐんぐんタイム

2日め **な** なかよしタイムの活動例

- 歌遊び：初めは一人、二人でできるものを行う
- 挨拶リレー
・「○○さん⇒はあい⇒手拍子」を、リズムよく繰り返して、児童が相互指名する。
- 遊び：少しずつ全員でできるものへ

2日め **わ** わくわくタイムの活動例

- 生活科 きょうから1ねんせい
・入学前の経験を問い、探検の約束を確かめる。名前を教え合う、教え合ったら握手をする、互いの「なかよしかあど」にサインをし合うなど楽しい活動につなげる。

②第2週

【ねらい】自分でできることを見つける。学校生活のリズムに慣れ、新しいことを楽しむ。

学校の施設の様子や生活のリズムに慣れ、自分でできることは自分で行う。

学校の施設や、学校にいる人（職員・上級生など）に関心をもち、すすんで関わるができる。教科等学習に興味をもち、すすんでやってみようとする。

※余剰カウント3½時間

	1年生に関わる予定	朝	1時間め	2時間め	3時間め	4時間め			
6日め	保護者会 学年朝会 安全指導	学年朝会	【言語】 ・挨拶リレー ・しりとり	今日やってみたい学習について発表する 校舎内を散歩する 上級生の生活の様子を見る	幼稚園、保育所で好きだった歌を歌う みんなで楽しく歌う	なかまをつくろう 給食準備			
			余剰カウント1	生活：きょうから1ねんせい	音楽	算数 余剰カウント½			
7日め	歯科検診 個人面談1	の	【言語】 ・読み聞かせ ・しりとり	みんなで歌おう 1年生を迎える会の練習	平仮名の練習 歯科検診	学校探検1 校庭の探検をする。 見つけたものをミニカードに書く	絵を見て同じ条件の集合に着目する		
				音楽	国語	行事½ 生活：わくわくどきどきしょうがっこう	算数： なかまをつくろう		
8日め	視力検査 5時間時程 (午前)	な [人間関係]	1年生を迎える会の練習	名刺カードを作って交換する 平仮名の練習	色々な場面の話し方・尋ね方を練習する	視力検査	学校探検2 1階の探検をする 見つけたものをミニカードに書く	集団行動と体つくりの運動遊び	給食準備
			余剰カウント1	音楽½	国語：わたしのなまえ	国語	行事½	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	体育： 体つくりの運動
9日め	心臓検診 個人面談2	の	【言語】 [人間関係]	1年生を迎える会の練習	心臓検診	いろいろな場面の話し方・尋ね方を練習する 平仮名の練習	10まで数える練習をする 数字の練習 1対1の対応		
			余剰カウント½	音楽	行事1	国語：こえのおおきさどれくらい	算数：くらべよう		
10日め	1年生を迎える会 腎臓検診 (予備日)	の	余剰カウント½	学校探検3 2階の探検をする。 見つけたものをミニカードに書く	1年生を迎える会	声の大きさを確かめる 平仮名の練習			
			道徳	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	行事1	国語：こえのおおきさどれくらい			

7日め わくわくタイムの活動例

- 生活科 わくわくどきどきしょうがっこう
 - ・桜の花びらが舞う、おたまじゃくしなどが見られる、春風が吹くなどよい機会を捉えてミニカードを書くよう促す。
 - ・入学前の経験を問い、探検の約束を確かめる。
 - ・初めは全員で回り、経験させたいこと（桜の花びらで遊ぶ、生きものを見る、職員と関わるなど）を行い、その後に自由に探検を促す。

9日め くんぐんタイムの活動例

- 教科の関連を図る
 - ・教科で学んだことを生活科で生かす。
 - 国語：挨拶や自己紹介の仕方、話し方や尋ね方
自分の名前を書く。
 - 算数：10までの数を数える。集合数。

③第3週

【ねらい】自分でできることを増やす。学校生活のリズムに慣れ、新しいことを楽しむ。

学校の施設の様子や生活のリズムに慣れ、自分でできることは自分で行う。

学校の施設や、学校にいる人（職員・上級生など）に関心を持ち、すすんで関わるができる。教科等学習に興味を持ち、すすんでやってみようとする。

※余剰カウント1½時間

	1年生に関わる予定	朝	1時間め		2時間め	3時間め		4時間め	
11日め	学年朝会 個人面談3		【人間関係】※挨拶リレー、仲間づくり	今週やってみたいことを話す	学校探検4 3階の探検をする。見つけたものをミニカードに書く	学校図書館の使い方を知り、楽しく本を読む 平仮名の練習	数字の練習 1対1の対応	給食準備	
			余剰カウント1½	国語	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	国語：おはなしたくさんききたいな	算数：10までの数	余剰カウント1½	
12日め			友達と歌遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶ	名刺作り 場に応じた尋ね方 平仮名の練習	体のバランスをとる 体づくり運動（体ほぐし）をする	数字の練習 1対1の対応	数字の練習 1対1の対応		
			音楽：うたでなかよし	国語：かいてみよう	体育：体づくりの運動	算数：10までの数			
13日め	5時間時程 (午前)		ことばあつめ うたにあわせてあいうえお	学校探検5 関心をもったところを探検する 見つけたものをミニカードに書く	校庭に行き、見つけたものを並べたり集めたりして友達と見せ合う	数字の練習 1対1の対応	図工で集めたものを数える	平仮名の練習	給食準備
			国語：こえをあわせてあいうえお	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	図工：みてみてみつけたよ	算数：10までの数	国語	余剰カウント1½	
14日め	集会 内科検診 個人面談4		ことばあつめ 平仮名練習 うたにあわせてあいうえお	この後の探検ではどんなことをしたいのか考えたり話し合ったりする	数字の練習 1対1の対応	集団行動と体づくりの運動遊び 固定施設を使っでの運動遊び			
			国語：こえをあわせてあいうえお	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	算数：10までの数	体育			
15日め	聴力検査 個人面談5		平仮名練習 うたにあわせてあいうえお	聴力検査	自分（グループ）の行きたいところへ行き、挨拶をしたり探検をさせてもらった	あかるいあいざつ	歌遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく歌う	1週間の振り返り	
			国語：こえをあわせてあいうえお	行事1½	生活：わくわくどきどきしょうがっこう	道徳	音楽	学級活動	

…のんびりタイム …なかよしタイム …わくわくタイム …ぐんぐんタイム

16日め以降は子どもの姿をよく見て、必要に応じ「なかよしタイム」を設定する。内容は、「人間関係づくり」と、元気づくり（朝）、給食の準備（4校時）など。連休後も留意する。

■「なかよしタイム」で人間関係づくり ～コミュニケーションを図る～

「のんびりタイム」（朝の支度後に絵画や読書、おしゃべりなどで楽しむ時間）は、登園後の自由保育の時間をイメージしています。始業前に短時間、自由に遊んで緊張をほぐすのがねらいです。この時間につながる「なかよしタイム」は人間関係を築き、学校を「安心できる居場所」にするための時間です。入学前に楽しんでいた歌遊びなどを聞き取り、初めは先生と児童、慣れてきたら教えてくれる児童を募り、教えたり教わったりしながら人間関係を築いていきます。また、絵本の読み聞かせやしりとり、見つけたものを話すなど、言葉でのコミュニケーションを楽しみます。先生と児童、児童どうしを結びつける時間でもあります。言語を介することが中心となる小学校の学習への「橋渡し」でもあり、国語科



グループでしりとり。言えたらおはじきをとる。

■「わくわくタイム」で 生活科と国語科との関連を図る

心や体がほぐれたら、「わくわくタイム」です。入学した学校のことを「知りたい！見に行きたい！」という自然な願いから生活科の学校探検が始まります。何かを発見すると、それを伝えたいくなります。そこで探検後、発見を伝え合う時間やカードに書く時間を短時間設定します。教師は児童の「伝えたい」気持ちを重視するとともに、「互いの話に関心をもつ」「話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞く」などの国語科での授業のねらいをおさえます。また、学校探検では教職員と挨拶や会話をすることが増えます。その機を逃さず「わたしのなまえ」や「かいてみよう」で名刺カードに名前を書くことをとおして、鉛筆の

の内容とつながるものも少なくありません。

持ち方や姿勢を指導したり、「たのしい いちにち」で入室や質問をするときの言葉の使い方を指導したりしま



学校探検で見つけた音楽室で、専科教諭と。

す。児童の意欲にそいながら、国語科と生活科を関連させて合科的なカリキュラムを組むのです。

■「ぐんぐんタイム」で 国語科のいきいきした学びを！

スタートカリキュラムも後半、学級の人間関係ができる頃に少しずつ「ぐんぐんタイム」を増やします。ねらいを「言葉を楽しんだり、想像を広げたりして読む」とした詩の学習では、児童たちから「好きなフレーズで立って読みたい」という願いが出ました。そこで立ったり座ったりしながら、自分の好きなフレーズを大きな声で言ったり、友達の好きなフレーズと比べて聞いたりして楽しく真剣に学習しました。スタートカリキュラムで人間関係を培い、自分の思いを安心して伝えてよいことを体得した児童たちによって、いきいきした国語科の学習になりました。

終わりに

保護者アンケートに「（スタートカリキュラムは）とてもよい。不安や心配がある硬い心だとどんな勉強もどんな経験も吸収するものが少ないはず。安心したやわらかい心だとたくさんのを吸収できるはずです。」とありました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）で示された「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」などは、特に国語科との親和性が強いものです。幼児期に培った「学び」を安心して発揮し、自立した1年生へと育てていくことが、各教科における資質・能力の育成につながります。自校の実態に応じ、できるところからスタートカリキュラムを編成することが、どの学校でも急務だと言えるでしょう。



第18回

地球となかよしメッセージ

作品募集(2020年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2020年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版
◎後援/環境省、日本環境協会、日本環境教育学会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞 *協賛/後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

前回
入選作品



旅するタネ

旅するタネは鳥にふわりと乗った。
下車したところは、道路。
名を「どこんじょうトマト」に変え、今年の暑い夏を乗り切った。
その赤い実は熟し、よい香りが漂う。そして、私の口へコロリと入り、体中を旅する。
つながる命、つながる世界。トマトの力強い生命力で私は元気になっていく。(小学4年)

生活科・総合通信 わくわくらぶ (2020年 春号) 2020年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
URL: <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

発行所: 教育出版株式会社

電話: 03-3238-6864 (内容について)
03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」ののっとり、配付を許可されているものです。